

民生委員・児童委員通信

しあわせ

HAPPY NETWORK

No.10 平成 22 年 3 月 1 日

発行 守山市民生委員児童委員協議会

事務局 守山市社会福祉協議会
住所 守山市下之郷三丁目2番5号
TEL 077-583-2923

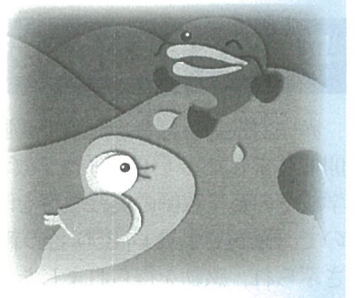
第3回全国校区・小地域福祉活動サミットin大津に参加する

昨年11月18日(水)、『あなたよし、わたしよし、地域よし。地域福祉で三方よし』をキーワードとした「第3回全国校区・小地域福祉活動サミットin大津」が、大津プリンスホテルを会場に3日間に渡り開催され、守山市の民生委員・児童委員も多数が参加しました。

サミットの中心は18日の本大会および活動・事例報告会でしたが、ホテル会場の淡海ホールは主催者予定参加者数1300名を大幅に上回る1800名の熱心な福祉への関心を寄せる方々で超満員状態でした。北海道から沖縄

までの人々であふれた地域福祉のエネルギーには心の温もりが充満していました。全体会(60分)では、「茗荷村」の美しい映像を見ながら、糸賀一雄氏が「この子を世の光に」と高らかに唱えた、障がい児童福祉の里、滋賀の地域福祉の源流に触れる対談で意識の高揚が図られました。

また、昼食交流を挟んだ午後の分科会では2つのセッションが持たれ(各80分)、参加者はそれぞれ6部にに分かれましたが、熱心に実践報告者の発表を傾聴させていただきました。どの部会も福祉関係者には血肉となり得るもので、実践への取り入れ、および元気づくりには欠かせない内容の報告ばかりでした。



市民児協全員研修(第2回)を開催 ～子どもの人権と支援について学ぶ～



昨年11月30日(月)、守山市民生委員児童委員協議会は、今年度第2回全員研修会をすこやかセンターで開催しました。児童人権月間にちなみ、県中央子ども家庭相談センター専門員の十二里 享先生をお招きして、『子どもの権利・児童虐待について』という演題で講演いただき、さまざまな課題を抱えた子どもの現状とその支援について学びました。

十二里先生からは、児童虐待の現状は、全国的には相談件数が十年前の約3.7倍に増加しているほか、死亡事件が相次いでいること、また、滋賀県では「家に閉じこめる」「食事を与えない」などの養育の怠慢・拒否(ネグレクト)による虐待が多くなっていることなどを資料に基づいて分かりやすくお話いただきました。

私たち民生委員・児童委員は、子どもの虐待の未然防止、早期発見・支援をめざして、日ごろから委員同志や家庭児童相談室などとの連携を図り、地域の子どもやその家庭についての情報収集に努めて見守っていくことが大切であると教えられました。

また、守山市民児協で取り組んでいる赤ちゃん訪問事業において、子育て支援の情報提供を行い、母親の不安や悩みに耳を傾ける活動を行っていますが、この活動が児童虐待予防の一策として役立つことを願っています。

さらに、市内で開催されている子育てサロンが、保護者の子育ての負担軽減や地域からの孤立を防ぐ場として展開されることを期待しています。(石原教 記)



さらに、市内で開催されている子育てサロンが、保護者の子育ての負担軽減や地域からの孤立を防ぐ場として展開されることを期待しています。(石原教 記)



ともに育つ

滋賀LD教育研究会
顧問 北脇 三知也

先日、A保育園を訪問した。その日は3歳児2名の相談にのることになっていた。「お話を聞く力が少し弱いのではないか」とか、「お友達との交わりがうまくいっていない」など、発達に順調でない子どもをどのように支えていけばよいかを、園の先生方に助言するのが私の役割である。

守山市では、発達支援室が設置されていて、市内のすべての保育園、幼稚園、小学校、中学校に対して年間計画的に訪問相談が実施されている。私は教職を退いた後、この事業のお手伝いをしている。

1時間近く、この子ども達の側で様子を見ることになる。ときには、私に近寄ってきて、「どこからきたの?」「誰のおじいちゃん?」と声をかけてくれる子がいる。また、自分が使っている物を横取りされて泣いている子もいる。このような子ども達の動きの中から、相談対象の子どもが年齢相応の動きをしているのか、そうではないかを観察するのである。

発達するということは、誰にとっても簡単なことではない。子ども達は、笑い、叫び、動き回って、少しずつ成長していくのである。このとき、側にいる人の影響が決定的である。しっかりと育って欲しいとの願いがあり、ともに育って行くのだと、お付き合いをするのである。気がついたら、17年が経っていたというのが今の心境である。私は、子ども達の相談にのりながら、子ども達に鍛えられ、育てていただいたのであった。ありがたい17年だった。



※ LDとは Learning Disabilities の略で学習障害の意

部会活動 — 第3部会 — (障害児・者福祉部会)の活動紹介

部会長 岡本 昭久

平成20年2月に役員選出と今後の活動計画の討議から部会活動を開始し、約2年が経過しました。民生委員・児童委員として障害者福祉を考えると、各種の障害の特質や、現在の社会状況の中でどのような課題が残されているのか、また歴史的に障害者の受け入れ方がどのように変わってきたのか等を知り、その見識を高めることが重要であると認識しました。そして民生委員・児童委員として障害者福祉にどのように係わるのか、また係わらなければならないのかを自分たちの課題として研修を始めました。

まず障害者と障害者を取り巻く状況について、知識と理解を深めることをメインとし、障害者施設の見学研修や障害者の活動に対するボランティアを体験してきました。以下に具体的な個々の研修内容を紹介します。

- 障害者の現状と課題について 講師 障害者自立支援課 増田 譲治氏
 - 守山市の発達障害への支援状況について 講師 発達支援センター 木虎 隆志氏
 - 守山市の特別支援教育の推進について 講師 学校教育課 川本 成子氏
 - 発達障害児と児を支える家族の思いについて 講師 NPO 法人滋賀県自閉症研究所 たんぼぼ理事長 福永ナナ子氏
 - あじさい園の見学と障害者福祉施設と障害者福祉の現状について 講師 あじさい園園長 石田 秀丸氏
 - 精神障害者をかかえる家族の日常 講師 守山市精神障害者家族会会長 又村 康夫氏、副会長 大幡 道弘氏
 - 虫の里見学研修と除草ボランティア
 - 止揚学園見学研修
 - 障害児・者への就労支援とその現状 講師 滋賀県障害者雇用支援センター 主任指導員 林 博之氏
 - 「かけはし」発行と今後の部会研修について全員討議
 - もりやま作業所、かいつぶりハウスの見学研修
 - もりやま障害福祉プランの概要について 講師 障害者自立支援課 奥村 壽純氏
 - 障害者手帳の種類と等級及びその手当(年金等)の概要 講師 障害者自立支援課 村田 尚子氏
 - 第42回全国肢体不自由児・者父母の会連合会全国大会にボランティアとして参加
 - 滋賀県立野洲養護学校見学研修
 - びわこ学園医療福祉センター野洲見学研修
 - 虫の里除草ボランティア
 - 滋賀県立盲学校見学研修
 - 視覚障害者の介助犬について 講師 特定非営利活動法人 日本サポートドッグ協会
- 以上の他に部会で参加を推奨した講演会や行事としては、
- 守山市の発達障害に関する講演会(毎年)
 - 守山市障害者ふれあいスポーツの集い(毎年)
 - 守山市障害者サマーホリデーサービス事業のボランティア参加、等



この部会メンバーでの活動はあと1年弱となりましたが、さらに一層有意義な研修を進めたいと考えております。皆様の変わらぬご支援ご指導をお願いします。

平成21年度福祉の心を育てる映画会「ブタがいた教室」を開催

赤い羽根共同募金の財源で、例年実施されている映画会を、12月20日(日)午後、開催しました。『いのち』や『教育』のあり方が問われることが多い昨今、大阪の小学校での新任教師の実践教育を映画化されたもので、鑑賞された約850名の親子が共に心揺さぶられ、感動を得られました。食事前に「いただきます」と手を合わせる気持ちを、再認識されたことと思います。



なお、当日、多くの鑑賞者からご協力いただいた共同募金額は32,386円の多額に達しました。本当にありがとうございました。(島田 記)

歳末たすけあいの心を届ける友愛訪問 ～ひとり暮らし高齢者へ和紙カレンダーを配布～

友愛訪問は、民生委員・児童委員の重要な地域活動のひとつです。昨年12月、その一環として守山市内のひとり暮らし高齢者(760余名)をそれぞれが訪問し、和紙カレンダーをお渡ししました。

このカレンダーは、知的障害者通所授産施設「あじさい園」(石田町)が作成したのですが、市民の皆さまから歳末たすけあい運動でご協力いただいた募金の配分金により、守山市社会福祉協議会が一括購入し、民生委員・児童委員が協力して配布しているものです。

今後も市民の皆さまのご協力と、市社協ほか関係機関との連携を深めながら、高齢者をはじめ市民の皆さまが安心して暮らせる地域づくりを目指し活動していきます。



学区だより

『地域福祉活動計画』素案づくりに参画 — 小津学区

小津学区民生委員児童委員協議会では、『学区社協地域福祉活動計画』の素案づくりに参画協力するため、本年度は計画づくりを中心とした活動を行っています。そのため計画をすでに作成された先進地である「富山県南砺市社協」や「草津市渋川学区社協」に訪問研修を実施し、交流も深めました。

南砺市では、山間部を抱え、過疎・高齢化が極端に進展する中、地域ぐるみの福祉活動ネットワーク化を推進しておられます。

草津市渋川学区では、開発が進みマンションが増えるなど近隣住民との連携が希薄化する中、福祉全般にわたってふれあいを大切にしまちづくりを推進されています。

小津学区は、高齢化が顕著な地域と開発の進む地域とが混在しています。南砺市や草津市の取り組みの両要素を考慮することは当学区の計画づくりにとって必要不可欠なことであり、大変参考になるものでした。

また、計画の住民意見を集約するため、昨年7月に「住民福祉講座」や「福祉を語るつどい」を開催し、8月には全戸を対象に「アンケート調査」を実施しました。寄せられた多くの意見を集約し、計画に反映できるよう現在取り組みが進められているところです。

われわれ民生委員・児童委員としても、できる限りの協力をさせていただき、実りのある計画が作成されることを望みつつ、取り組んでいます。



活動日誌

河西学区 独自の下校安全ボランティア

河西学区民生委員児童委員協議会は、昨年5月と11月に河西小学校の一斉下校日に合わせ、各委員が学校まで出迎えに行き、子どもらと一緒に地区まで帰る、下校安全ボランティア日を設定し実施しました。

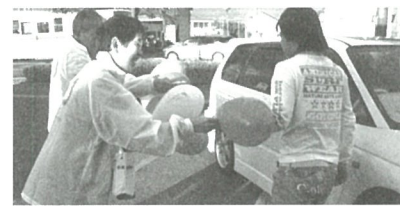
集団下校ではないために、低学年の子どもがどうしても遅くなりますが、反面いろいろな会話などを交わしながら楽しい下校となり、責任をもって子どもたちの帰宅を見届けました。



速野学区 共同募金活動を実施する

速野学区民生委員児童委員協議会では、福祉協力員と一緒に昨年12月6日(日)、共同募金活動を実施しました。午後3時から、ピエリ守山、フレンドマート、スター、セブンイレブンの店頭で、買物に来られた方に募金への協力をお願いしました。みなさんの温かい心を感じる事ができた貴重な活動となりました。

その後、速野会館で福祉協力員と民生委員・児童委員との懇談会をもち、地域での福祉活動について意見交換をしました。



編集後記

民生委員として2年の間に感じたこと、このくつかを(当たり前のようにですが...)、様々な悩みや思いをもたれている方々とは時間をかけて、丁寧に話を聞かせて頂くことが大切だということ
②人と人とのつながりは、一朝一夕ではとてもできないということ
③様々な施策や行政とのつなぎ方を十分に理解していること
等々：自分自身を磨くことが先決だと思います。(上畑 記)

平成17年9月1日、広報の発刊から5年が過ぎ、10回目に当たり、広報委員一同、読者に少しでも読み易い内容のものを届けたいと思っております。本号もお陰様で関係者各位のご指導とご支援を賜り、期日に発行し、読者にお届けします。
創刊1号から10号までを振り返り、思うことは「しあわせ」はみんなの願い、夢で終わらず叶えられる時を思い、広報活動を通じて地域福祉の向上に努めたいと考えます。(戸崎 記)